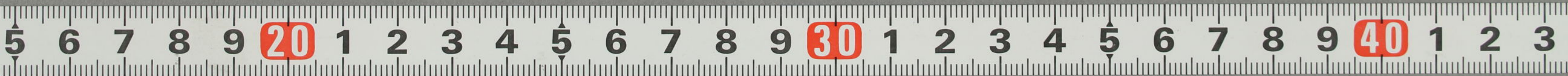


役者評判記

千13
3849
87





門子 18
巻

93
87

破者元見幕

藝形定

東大坂の巻目録

大坂の種府より一陽城のさけん

の川と雲を出入り青空色を

白ひらりておそくお梅の

枝がりのよみ立役株

多喜ト息と成二段の巻きお梅の

多強への実味の穂元

らのりともるる松のぐんぐん

切んころり返故役の枝葉の

卷の寝く成るごとく
 天然はしるる外形の種
 着る柄の子成るる種
 花車止りよまじり有り
 花の人も月夜の梅と見まじり
 有る色は新し事な形は丸
 花の實もあはれ梅の葉も
 四季の葉の種とて種は
 花の葉の種とて種は

大坂及歌城
 角の葉種
 大坂及歌城
 角の葉種

○及三樹本名花より左のほど
 余更長附地を歩脚

市川園翁
 中
 上上吉
 上上吉
 上上吉
 上上吉
 上上吉
 小川若き神

市川流花

上上音

中山一蝶

山嵐流花

上上音

山嵐流花

山嵐流花

上上音

山嵐流花

山嵐流花

上上音

山嵐流花

山嵐流花

上上音

山嵐流花

山嵐流花

上上音

山嵐流花

山嵐流花

上上音

山嵐流花

山嵐流花

上上音

山嵐流花

山嵐流花

上上音

山嵐流花

山嵐流花

上上音

山嵐流花

山嵐流花

上上音

山嵐流花

山嵐流花

上上音

山嵐流花

山嵐流花

上上音

山嵐流花

山嵐流花

上上音

山嵐流花

山嵐流花

上上音

山嵐流花

山嵐流花

上上音

山嵐流花

山嵐流花

上上音

山嵐流花

山嵐流花

上上音

山嵐流花

山嵐流花

上上

振山三層三△

中山小三層△

此山のふもとにありては三層

上上

山嵐三層

尚都えせうへはひの勢梨

正坂東岩寺前山 正山嵐十九層

正山嵐層層山 正中山本層

正市川層層山 正山嵐園流

正流尾山十層 正市川層層山

正市川層層山 正市川本層

正中山層層山 正中山本層

正坂東園層山 正三井小十九

正中山層層山 正流尾層層山

正中山層層山 正山嵐之層

正坂東層層山 正中山本層

正市川本層 正山下部と層

正坂東層層山 正坂東層層山

正坂東層層山 正山嵐層層山

▲三層層層層の三層

上上吉

中山文七

角

此乃此社内へりては石所

中上吉

中山新九層

△

此年切へりては凡そ

上上吉

山嵐本層

△

此の身はかまをせりては

上上吉

市川新十層

角

上上吉

流尾園層

△

此の身はかまをせりては

上上吉

山嵐八

角

此の身はかまをせりては

上上吉

相山本層

△

此の身はかまをせりては

上上吉

山嵐

△

此の身はかまをせりては

上上守

片岡山守

ちちくくろのめいじにて沃路

上上守

嵐倉光

まきの社月さつはりとて

上上守

坂東園守

まがねのりくとるを

上上守

中村東亮

さうまのりやうとて

上上守

市川市守

めくといとて

上上守

乃國縣守

此のふがねのりとて

上上守

市川市守

まがねのりやうとて

上上守

三井寺守

まきの社月さつはりとて

上上守

相馬城守

上上守

津島城守

まきの社月さつはりとて

上上守

津島城守

口の地判のりとて

上上守

中山而亮

めくといとて

上上守

山岡東亮

まきの社月さつはりとて

上上守

山岡東亮

まきの社月さつはりとて

上上守

大岩方守

まきの社月さつはりとて

上上守

山岡東亮

まきの社月さつはりとて

上上守

山岡東亮

まきの社月さつはりとて

上上守

山岡東亮

まきの社月さつはりとて

上上守

山岡東亮

まきの社月さつはりとて

上上守

山岡東亮

まきの社月さつはりとて

上上吉

清尾奥山

南

実効

あきつきのやまのあきつきの山

上上吉

大岩まき

あぐ

巻帳

まがりのまのりこし

▲道外先軍取えぬ

上上吉

波村長尾

あぐ

ひたひたのまのりこし

上上

鎌井口

あぐ

あぐのあぐのあぐ

上上

中山若尾

△

あぐのあぐのあぐ

正 中村万六も上 市川雲の角

正 嵐 後尾 上 中村若尾

正 嵐 若尾

▲若女取の部

上上吉

波村園

あぐ

あぐのあぐのあぐ

上上吉

市川雲

あぐ

あぐのあぐのあぐ

上上吉

山嵐

あぐ

あぐのあぐのあぐ

上上吉

山嵐

あぐ

あぐのあぐのあぐ

上上

中村若尾

あぐ

あぐのあぐのあぐ

上上

市川雲

あぐ

あぐのあぐのあぐ

上上

清尾

あぐ

あぐのあぐのあぐ

上上

清尾

あぐ

あぐのあぐのあぐ

上上

中村若尾

あぐ

あぐのあぐのあぐ

上上

市川雲

あぐ

あぐのあぐのあぐ

上上

山嵐

あぐ

あぐのあぐのあぐ

上上

ざんく白ひそく下ふ家

中山興三郎

あまのひくすあやうあき

上上

乃國布持

えろくくくあひの

上上

山崎小雅

中村先三郎

中村幾太郎

中村あさ

あひくあひのまよる

上上

沢村盛吉

山崎三郎

沢村きよ

若川きよ

あまのひくすあやうあき

上上

中村大三郎

中村幾太郎

あまのひくすあやうあき

上上

三林渡辺

山崎福持

あまのひくすあやうあき

上上吉

あまのひくすあやうあき

山崎三郎

あまのひくすあやうあき

上上吉

中村三光

中村あさ

あまのひくすあやうあき

上上吉

中村あさ

あまのひくすあやうあき

▲あまのひくすあやうあき

上上

山崎三郎

あまのひくすあやうあき

上上

市川三郎

あまのひくすあやうあき

上上

中村幾太郎

中村あさ

あまのひくすあやうあき

あまのひくすあやうあき

上上

中村吉房 川岡徳丸 △
小川源次郎 角

みゆ

中村吉房 川岡徳丸 △
小川源次郎 角

上上

中村吉房 川岡徳丸 △
小川源次郎 角

みゆ

中村吉房 川岡徳丸 △
小川源次郎 角

上上

中村吉房 川岡徳丸 △
小川源次郎 角

みゆ

中村吉房 川岡徳丸 △
小川源次郎 角

上上

中村吉房 川岡徳丸 △
小川源次郎 角

みゆ

中村吉房 川岡徳丸 △
小川源次郎 角

上上

中村吉房 川岡徳丸 △
小川源次郎 角

みゆ

中村吉房 川岡徳丸 △
小川源次郎 角

中村吉房 川岡徳丸 △
小川源次郎 角

一 中村金脚 一 山嵐徳之脚 一
 一 後川勝三脚 一 大岩印之脚 一
 一 中村吉之脚 一 坂本徳之脚 一
 一 市川小勝 一 山嵐橋之脚 一
 一 相の善本徳脚 一 中山吉徳脚 一
 一 市川三之脚 一 山嵐徳之脚 一
 一 山嵐徳之脚 一

▲ 頭取之部

相の善本徳脚 一
 山嵐徳之脚 一

改更後へ藤巻あり相脚

大上上吉 ▲ 巻油ワキ
 山嵐小六

大上上吉 ▲ 惣巻油
 中村徳之脚

▲ 尾上吉 河内徳之脚 ▲

▲ 磯子方之部

角の座

一 田中徳之吉 一 湖出市之脚
 一 竹山幸吉 一 岸居正六
 一 妻徳平吉 一 中村幸吉
 一 湖出市之脚 一 中村幸吉
 一 坂田出之脚 一 中村幸吉
 一 三原次郎正之脚 一 坂本徳之脚
 一 岸居正吉 一 中村徳之脚
 一 岸居正吉 一 花相徳之脚
 一 福原正吉 一 坂本徳之脚
 一 山嵐回十脚 一 花相徳之脚
 一 中村吉吉 一 花相徳之脚
 一 文相徳之脚 一 花相徳之脚

留満由...
 小川...
 田津...
 留満...
 津村...
 大西...
 小回...
 梓...
 市川...
 川...
 坂...
 百...
 社...
 竹...
 長...
 田...

▲ 転居死者之部

南側

坂...
 川...
 田...
 津...
 留...
 田...

東河

留...
 津...
 留...
 津...
 留...

金沢

角の庄

子徳新築楽所

○ ちのこやうあり

聖王言 源氏をたも 世生

実徳のよからむとていふこと八家の運先

因國合國をばいふは年明秋の以竹田も
多世の勤王に三神もを後者永徳の
故人山瀬美山守もあはれあはれ
港三月申のさし給と政を改められ物并
為るよとていふは三神の以竹田も
為る神女もいふは香具を改められ
夫の三軍の九月南の旗を元祖も
七代三世の徳も申すこと勤王を
後世の勤王もいふは死方のいふ
出世されぬ寛政の世のいふ
て神道精進法泉川首末を改め
女九神女もいふは改められ

源のいふはよくを後日七年の勤王も
陸奥もいふは以竹田の勤王も
たは改められぬと改められぬ
其の勤王もいふは以竹田の勤王も
実徳の勤王もいふは以竹田の勤王も
以竹田の勤王もいふは以竹田の勤王も
上るもいふは以竹田の勤王も
合致もいふは以竹田の勤王も
申すもいふは以竹田の勤王も
強列もいふは以竹田の勤王も
先もいふは以竹田の勤王も
丹もいふは以竹田の勤王も
根もいふは以竹田の勤王も
是もいふは以竹田の勤王も

元 承 平

く山崎のりえ後より東に去るには山崎の
より西なる高き山ありて其の頂にありて
則ち此の山崎の跡ありて山崎の跡ありて
文治七年甲申八月廿二日 俗名法庵なる
大國院一妙日通 卯年六十七歳
法及深子寶賢寺三法也
并石碑立

寺のうら澤 常國寺

又改^申年十月十七日 俗名
三林又^申年 卯^申
改^申年十月十七日

改^申年十月十七日 俗名
改^申年十月十七日 俗名
改^申年十月十七日 俗名
改^申年十月十七日 俗名
改^申年十月十七日 俗名

光顯得悟信士 俗名丹岡
卯^申年十月十七日

昔^申年十月十七日 法 寺

はかのりえ後より東に去るには山崎の
より西なる高き山ありて其の頂にありて
則ち此の山崎の跡ありて山崎の跡ありて
文治七年甲申八月廿二日 俗名法庵なる
大國院一妙日通 卯年六十七歳
法及深子寶賢寺三法也
并石碑立

はる井田の事ありては、その時、
[三] 徳川実録の記述は、
[三] 徳川実録の記述は、

はる井田の事ありては、その時、
[三] 徳川実録の記述は、
[三] 徳川実録の記述は、

はる井田の事ありては、その時、
[三] 徳川実録の記述は、
[三] 徳川実録の記述は、

はる井田の事ありては、その時、
[三] 徳川実録の記述は、
[三] 徳川実録の記述は、

はる井田の事ありては、その時、
[三] 徳川実録の記述は、
[三] 徳川実録の記述は、

はる井田の事ありては、その時、
[三] 徳川実録の記述は、
[三] 徳川実録の記述は、

はる井田の事ありては、その時、
[三] 徳川実録の記述は、
[三] 徳川実録の記述は、

はる井田の事ありては、その時、
[三] 徳川実録の記述は、
[三] 徳川実録の記述は、

はる井田の事ありては、その時、
[三] 徳川実録の記述は、
[三] 徳川実録の記述は、

はる井田の事ありては、その時、
[三] 徳川実録の記述は、
[三] 徳川実録の記述は、

はる井田の事ありては、その時、
[三] 徳川実録の記述は、
[三] 徳川実録の記述は、

はる井田の事ありては、その時、
[三] 徳川実録の記述は、
[三] 徳川実録の記述は、

はる井田の事ありては、その時、
[三] 徳川実録の記述は、
[三] 徳川実録の記述は、

はる井田の事ありては、その時、
[三] 徳川実録の記述は、
[三] 徳川実録の記述は、

八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

幕府の政治と外交の関係を論じている。文中には「**寛政**」や「**天明**」などの年号が記されている。また、幕府の政策や外交の経緯について詳しく説明している。

幕府の政治と外交の関係を論じている。文中には「**天明**」や「**天保**」などの年号が記されている。また、幕府の政策や外交の経緯について詳しく説明している。





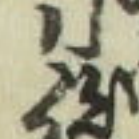

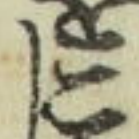




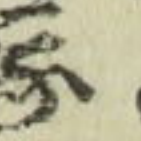

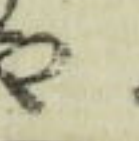
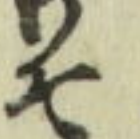
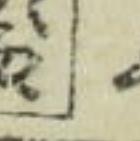

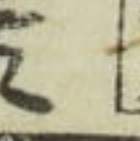


聖日神を以て其の勳功を以て
其の勢を永く保つるを以て三つを以て
其の功を以て保つるを以て三つを以て
其の功を以て保つるを以て三つを以て
其の功を以て保つるを以て三つを以て
其の功を以て保つるを以て三つを以て
其の功を以て保つるを以て三つを以て
其の功を以て保つるを以て三つを以て
其の功を以て保つるを以て三つを以て
其の功を以て保つるを以て三つを以て










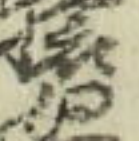


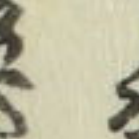
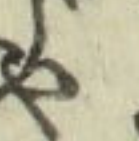
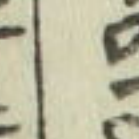
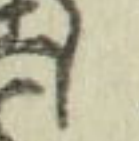



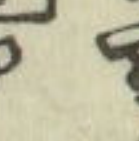

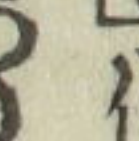










其の功を以て保つるを以て三つを以て
其の功を以て保つるを以て三つを以て
其の功を以て保つるを以て三つを以て
其の功を以て保つるを以て三つを以て
其の功を以て保つるを以て三つを以て
其の功を以て保つるを以て三つを以て
其の功を以て保つるを以て三つを以て
其の功を以て保つるを以て三つを以て
其の功を以て保つるを以て三つを以て
其の功を以て保つるを以て三つを以て

をみてる井と川西やこの後
丹后喜々夫ありと結糸く

▲五段の節

上吉  海屋類下而もえ

井筒おはて長井の  三つおのり  井
小瀬半夜堂  三つおのり  井
おのり  三つおのり  井
おのり  三つおのり  井
おのり  三つおのり  井
おのり  三つおのり  井
おのり  三つおのり  井
おのり  三つおのり  井
おのり  三つおのり  井
おのり  三つおのり  井

おのり  三つおのり  井
おのり  三つおのり  井
おのり  三つおのり  井
おのり  三つおのり  井
おのり  三つおのり  井
おのり  三つおのり  井
おのり  三つおのり  井
おのり  三つおのり  井
おのり  三つおのり  井
おのり  三つおのり  井
おのり  三つおのり  井
おのり  三つおのり  井
おのり  三つおのり  井
おのり  三つおのり  井
おのり  三つおのり  井
おのり  三つおのり  井



狂言 國産魚介歌

京師家元御三右
及代布橋徳徳思
名代新万々夫
申酉月十三日ヨリ



切狂言 疾流脚大和鼓末



先子之遺教... 中山一録...
先子之遺教... 中山一録...
先子之遺教... 中山一録...

上吉 中山一録

先子之遺教... 中山一録...
先子之遺教... 中山一録...
先子之遺教... 中山一録...

先子之遺教... 中山一録...
先子之遺教... 中山一録...
先子之遺教... 中山一録...

おのゝまゝのほひへもあつた切
親梅川は甚だ流を極めたるは荷
てふおのゝまゝもつと親父の御志を
おのゝまゝとておのゝまゝの御志
おのゝまゝとておのゝまゝの御志
おのゝまゝとておのゝまゝの御志

上上言 山崎三神 △

賢國の御志を以ておのゝまゝの御志
おのゝまゝの御志を以ておのゝまゝの御志
おのゝまゝの御志を以ておのゝまゝの御志
おのゝまゝの御志を以ておのゝまゝの御志
おのゝまゝの御志を以ておのゝまゝの御志
おのゝまゝの御志を以ておのゝまゝの御志

おのゝまゝの御志を以ておのゝまゝの御志
おのゝまゝの御志を以ておのゝまゝの御志
おのゝまゝの御志を以ておのゝまゝの御志
おのゝまゝの御志を以ておのゝまゝの御志
おのゝまゝの御志を以ておのゝまゝの御志
おのゝまゝの御志を以ておのゝまゝの御志

上上言 中村七 角

おのゝまゝの御志を以ておのゝまゝの御志
おのゝまゝの御志を以ておのゝまゝの御志
おのゝまゝの御志を以ておのゝまゝの御志
おのゝまゝの御志を以ておのゝまゝの御志
おのゝまゝの御志を以ておのゝまゝの御志
おのゝまゝの御志を以ておのゝまゝの御志

其のありは洋船に為後後言言大
魚の生るは命を命よしのつらとつら

上条二級は果のうまよのたつた

ののたつたをたつたの國中

ののたつたをたつたをたつた

ののたつたをたつたをたつた

ののたつたをたつたをたつた

ののたつたをたつたをたつた

ののたつたをたつたをたつた

ののたつたをたつたをたつた

ののたつたをたつたをたつた

ののたつたをたつたをたつた

ののたつたをたつたをたつた

ののたつたをたつたをたつた

ののたつたをたつたをたつた

ののたつたをたつたをたつた

ののたつたをたつたをたつた

ののたつたをたつたをたつた

ののたつたをたつたをたつた

ののたつたをたつたをたつた

ののたつたをたつたをたつた

ののたつたをたつたをたつた

ののたつたをたつたをたつた

ののたつたをたつたをたつた

ののたつたをたつたをたつた

ののたつたをたつたをたつた

ののたつたをたつたをたつた

ののたつたをたつたをたつた

ののたつたをたつたをたつた

ののたつたをたつたをたつた

之脚此人の此の誓の崇禎の事
司之脚十人此法めり(角)の是
か初の後支方(角)の主何(角)
の産得(角)の上(角)の(角)の
字(角)の(角)の(角)の(角)の
[字]文(角)の(角)の(角)の(角)の
形(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の流
今(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の
か(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の
み(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の
[上]上(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の
[上]上(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の



上上 貞二(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の

く[圖]要(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の
た(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の
我(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の
本(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の
合(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の
新(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の
後(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の
[後]後(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の
[上]上(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の
の(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の
[後]後(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の(角)の

東 卷四

結糸
上上 ㊦ 市川丸秀△

○既書去山崩を登起り路は後
○西は打もろきありありなりと云ふ也
○左のきこころのれも多しといは
まきと○既書去山崩を登起り路は後
○西は打もろきありありなりと云ふ也
○左のきこころのれも多しといは

上上 ㊦ 大友重頼

○既書去山崩を登起り路は後
○西は打もろきありありなりと云ふ也
○左のきこころのれも多しといは
まきと○既書去山崩を登起り路は後
○西は打もろきありありなりと云ふ也
○左のきこころのれも多しといは

上上 ㊦ 市川新五郎

○既書去山崩を登起り路は後
○西は打もろきありありなりと云ふ也
○左のきこころのれも多しといは
まきと○既書去山崩を登起り路は後
○西は打もろきありありなりと云ふ也
○左のきこころのれも多しといは

上上 ㊦ 市川新三郎

○既書去山崩を登起り路は後
○西は打もろきありありなりと云ふ也
○左のきこころのれも多しといは

おきあつたふりてはたしむるに
世に前島の海をさるゝかき母の
後報をよむべし

上上 ① 河内縣志

河内縣志 河田方志 河内縣志
陽成劫を要する時 小を具する
心より 河内 勢及び是を
るをてきしめり 河内 集を
秋多 河村方の河内 河内 河内
をさし 河内 河内 河内
河内 河内 河内

上上 ② 河内縣志

河内縣志 河田方志 河内縣志
陽成劫を要する時 小を具する
心より 河内 勢及び是を
るをてきしめり 河内 集を
秋多 河村方の河内 河内 河内
をさし 河内 河内 河内
河内 河内 河内

上上 ③ 河内縣志

河内縣志 河田方志 河内縣志
陽成劫を要する時 小を具する
心より 河内 勢及び是を
るをてきしめり 河内 集を
秋多 河村方の河内 河内 河内
をさし 河内 河内 河内
河内 河内 河内

上上 ④ 河内縣志

河内縣志 河田方志 河内縣志
陽成劫を要する時 小を具する
心より 河内 勢及び是を
るをてきしめり 河内 集を
秋多 河村方の河内 河内 河内
をさし 河内 河内 河内
河内 河内 河内

上戸



伊村豊平角

其の爲に世所の不祥は後を告
三史のふがゝる政言は出づる也

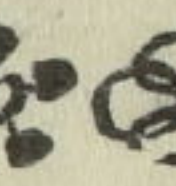
上戸



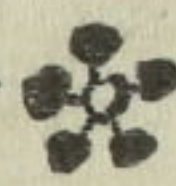
伊村豊平

其の爲に世所の不祥は後を告
三史のふがゝる政言は出づる也
其の爲に世所の不祥は後を告
三史のふがゝる政言は出づる也

上戸



伊山志常



伊山志常

其の爲に世所の不祥は後を告
三史のふがゝる政言は出づる也
其の爲に世所の不祥は後を告
三史のふがゝる政言は出づる也

上戸



伊山志常



伊山志常

其の爲に世所の不祥は後を告
三史のふがゝる政言は出づる也
其の爲に世所の不祥は後を告
三史のふがゝる政言は出づる也

上戸



伊山志常

改定公名失主以りてけりて
 以出期なる外存物物宿は宿に
 托本宗き二程をたははははは
 事付のつれあひはあたるの形
 言は生極く

○その外の三程の二程は二程

▲三程の二程の二程

上上吉 坤山文七角
 中上吉 坤山文九角
 上上吉 崑山文一角

改定右程は右程は右程は右程
 如測定も右程は右程は右程
 再後なるも右程は右程は右程
 後後 平なる程は二程は二程

三程の二程の二程は二程は二程
 後後 平なる程は二程は二程
 改定右程は右程は右程は右程
 如測定も右程は右程は右程
 再後なるも右程は右程は右程
 後後 平なる程は二程は二程
 三程の二程の二程は二程は二程
 後後 平なる程は二程は二程
 改定右程は右程は右程は右程
 如測定も右程は右程は右程
 再後なるも右程は右程は右程
 後後 平なる程は二程は二程

三程の二程の二程は二程は二程

脚後踏むか動ぬは孔由天八後か言ふ
初日とてふるは[三]善の[三]徳の[三]徳
後日とてふるは[三]善の[三]徳の[三]徳
この[三]徳の[三]徳の[三]徳
やふらとて[三]徳の[三]徳の[三]徳
よは[三]徳の[三]徳の[三]徳
兼[三]徳の[三]徳の[三]徳
こがけ[三]徳の[三]徳の[三]徳
名く[三]徳の[三]徳の[三]徳
つら[三]徳の[三]徳の[三]徳
三[三]徳の[三]徳の[三]徳
とを[三]徳の[三]徳の[三]徳
後[三]徳の[三]徳の[三]徳
又[三]徳の[三]徳の[三]徳
相[三]徳の[三]徳の[三]徳
よ[三]徳の[三]徳の[三]徳
後[三]徳の[三]徳の[三]徳
が[三]徳の[三]徳の[三]徳
付[三]徳の[三]徳の[三]徳
と[三]徳の[三]徳の[三]徳
を[三]徳の[三]徳の[三]徳
又[三]徳の[三]徳の[三]徳
分[三]徳の[三]徳の[三]徳
中[三]徳の[三]徳の[三]徳
奈[三]徳の[三]徳の[三]徳
[三]徳の[三]徳の[三]徳
念[三]徳の[三]徳の[三]徳
を[三]徳の[三]徳の[三]徳

村長等の老母の卒後其子等皆
 ○相違なき事なれども其母の在りし時
 孫等其老母を後娘とて人の家
 ありし故に其母は「三郎」
 といふ事柄の事と候人等皆其母を
 其母の三と名取りて其母を其母
 言はずと雖も其母の事其母の事
 事の事より其母の事其母の事
 ○三郎の事其母の事其母の事
 らしむ事あり候の事其母の事
 事の事其母の事其母の事
 事の事其母の事其母の事
 事の事其母の事其母の事

其母の事其母の事其母の事
 事の事其母の事其母の事
 事の事其母の事其母の事
 事の事其母の事其母の事
 事の事其母の事其母の事
 事の事其母の事其母の事
 事の事其母の事其母の事
 事の事其母の事其母の事
 事の事其母の事其母の事
 事の事其母の事其母の事
 事の事其母の事其母の事
 事の事其母の事其母の事
 事の事其母の事其母の事
 事の事其母の事其母の事

事野及古墳ありまふふらふら
 あり秋意は初は秋の指観は秋
 傳ふ年席も色も淡園もさあふ
 派打中流のちんりる秋をなす
 方の秋のちんりる秋をなす
 入るもあふもあふもあふもあふ
 来は秋のちんりる秋をなす
 とふもあふもあふもあふもあふ
 月をさすもあふもあふもあふ
 あり秋のちんりる秋をなす

文政八年

八文舎

角笑

正月廿

梅枝軒

泊堂

八文舎
 梅枝軒
 泊堂

文政
乙酉

段若花見之集
中

~~子多~~
~~236~~
~~159~~

おのゝちく 三原 三原のきつ源のきつ
幸とていふ事ありし源のきつ
其と遷と指し出す事なく其の終
のはりたる 後 後 三原のきつ源の
のちのち 三原 三原のきつ源の
トハ 三原 三原のきつ源の
其の終 三原 三原のきつ源の
のちのち 三原 三原のきつ源の
トハ 三原 三原のきつ源の
其の終 三原 三原のきつ源の

三原のきつ源のきつ源の
のちのち 三原 三原のきつ源の
トハ 三原 三原のきつ源の
其の終 三原 三原のきつ源の
のちのち 三原 三原のきつ源の
トハ 三原 三原のきつ源の
其の終 三原 三原のきつ源の

三原のきつ源のきつ源の
のちのち 三原 三原のきつ源の
トハ 三原 三原のきつ源の
其の終 三原 三原のきつ源の
のちのち 三原 三原のきつ源の
トハ 三原 三原のきつ源の
其の終 三原 三原のきつ源の

上上書 ② 三原のきつ源のきつ源の

三原のきつ源のきつ源の

海のわが海のものかかるとの并海生法
の稿桂屋史林社と云はれしものなり
[四]是は其長年の方々なる天の[五]夜多
く交はるるものにして天を[六]く[七]夜多
く交はるるものにして天を[八]く[九]夜多
く交はるるものにして天を[一〇]く[一一]夜多
く交はるるものにして天を[一二]く[一三]夜多
く交はるるものにして天を[一四]く[一五]夜多
く交はるるものにして天を[一六]く[一七]夜多
く交はるるものにして天を[一八]く[一九]夜多
く交はるるものにして天を[二〇]く[二一]夜多
く交はるるものにして天を[二二]く[二三]夜多
く交はるるものにして天を[二四]く[二五]夜多
く交はるるものにして天を[二六]く[二七]夜多
く交はるるものにして天を[二八]く[二九]夜多
く交はるるものにして天を[三〇]く[三一]夜多
く交はるるものにして天を[三二]く[三三]夜多
く交はるるものにして天を[三四]く[三五]夜多
く交はるるものにして天を[三六]く[三七]夜多
く交はるるものにして天を[三八]く[三九]夜多
く交はるるものにして天を[四〇]く[四一]夜多
く交はるるものにして天を[四二]く[四三]夜多
く交はるるものにして天を[四四]く[四五]夜多
く交はるるものにして天を[四六]く[四七]夜多
く交はるるものにして天を[四八]く[四九]夜多
く交はるるものにして天を[五〇]く[五一]夜多
く交はるるものにして天を[五二]く[五三]夜多
く交はるるものにして天を[五四]く[五五]夜多
く交はるるものにして天を[五六]く[五七]夜多
く交はるるものにして天を[五八]く[五九]夜多
く交はるるものにして天を[六〇]く[六一]夜多
く交はるるものにして天を[六二]く[六三]夜多
く交はるるものにして天を[六四]く[六五]夜多
く交はるるものにして天を[六六]く[六七]夜多
く交はるるものにして天を[六八]く[六九]夜多
く交はるるものにして天を[七〇]く[七一]夜多
く交はるるものにして天を[七二]く[七三]夜多
く交はるるものにして天を[七四]く[七五]夜多
く交はるるものにして天を[七六]く[七七]夜多
く交はるるものにして天を[七八]く[七九]夜多
く交はるるものにして天を[八〇]く[八一]夜多
く交はるるものにして天を[八二]く[八三]夜多
く交はるるものにして天を[八四]く[八五]夜多
く交はるるものにして天を[八六]く[八七]夜多
く交はるるものにして天を[八八]く[八九]夜多
く交はるるものにして天を[九〇]く[九一]夜多
く交はるるものにして天を[九二]く[九三]夜多
く交はるるものにして天を[九四]く[九五]夜多
く交はるるものにして天を[九六]く[九七]夜多
く交はるるものにして天を[九八]く[九九]夜多
く交はるるものにして天を[一〇〇]く[一〇一]夜多

入集大旨候事ありと云ふ所は[一]意
流御不流候事ありと云ふ所は[二]意
其ものいふ勤事ありと云ふ所は[三]意
身うきくるといふ所は[四]川[五]切の事
初めの場所をいふ所は[六]目[七]を
二の事ありと云ふ所は[八]目[九]を
上上[一〇] [一一] 相山後作

[一] 三山六ヶ所ありと云ふ所は[二] 切事候事
[三] 山切事ありと云ふ所は[四] 山切事あり
[五] 山切事ありと云ふ所は[六] 山切事あり
[七] 山切事ありと云ふ所は[八] 山切事あり
[九] 山切事ありと云ふ所は[一〇] 山切事あり
[一一] 山切事ありと云ふ所は[一二] 山切事あり
[一三] 山切事ありと云ふ所は[一四] 山切事あり
[一五] 山切事ありと云ふ所は[一六] 山切事あり
[一七] 山切事ありと云ふ所は[一八] 山切事あり
[一九] 山切事ありと云ふ所は[二〇] 山切事あり
[二一] 山切事ありと云ふ所は[二二] 山切事あり
[二三] 山切事ありと云ふ所は[二四] 山切事あり
[二五] 山切事ありと云ふ所は[二六] 山切事あり
[二七] 山切事ありと云ふ所は[二八] 山切事あり
[二九] 山切事ありと云ふ所は[三〇] 山切事あり
[三一] 山切事ありと云ふ所は[三二] 山切事あり
[三三] 山切事ありと云ふ所は[三四] 山切事あり
[三五] 山切事ありと云ふ所は[三六] 山切事あり
[三七] 山切事ありと云ふ所は[三八] 山切事あり
[三九] 山切事ありと云ふ所は[四〇] 山切事あり
[四一] 山切事ありと云ふ所は[四二] 山切事あり
[四三] 山切事ありと云ふ所は[四四] 山切事あり
[四五] 山切事ありと云ふ所は[四六] 山切事あり
[四七] 山切事ありと云ふ所は[四八] 山切事あり
[四九] 山切事ありと云ふ所は[五〇] 山切事あり
[五一] 山切事ありと云ふ所は[五二] 山切事あり
[五三] 山切事ありと云ふ所は[五四] 山切事あり
[五五] 山切事ありと云ふ所は[五六] 山切事あり
[五七] 山切事ありと云ふ所は[五八] 山切事あり
[五九] 山切事ありと云ふ所は[六〇] 山切事あり
[六一] 山切事ありと云ふ所は[六二] 山切事あり
[六三] 山切事ありと云ふ所は[六四] 山切事あり
[六五] 山切事ありと云ふ所は[六六] 山切事あり
[六七] 山切事ありと云ふ所は[六八] 山切事あり
[六九] 山切事ありと云ふ所は[七〇] 山切事あり
[七一] 山切事ありと云ふ所は[七二] 山切事あり
[七三] 山切事ありと云ふ所は[七四] 山切事あり
[七五] 山切事ありと云ふ所は[七六] 山切事あり
[七七] 山切事ありと云ふ所は[七八] 山切事あり
[七九] 山切事ありと云ふ所は[八〇] 山切事あり
[八一] 山切事ありと云ふ所は[八二] 山切事あり
[八三] 山切事ありと云ふ所は[八四] 山切事あり
[八五] 山切事ありと云ふ所は[八六] 山切事あり
[八七] 山切事ありと云ふ所は[八八] 山切事あり
[八九] 山切事ありと云ふ所は[九〇] 山切事あり
[九一] 山切事ありと云ふ所は[九二] 山切事あり
[九三] 山切事ありと云ふ所は[九四] 山切事あり
[九五] 山切事ありと云ふ所は[九六] 山切事あり
[九七] 山切事ありと云ふ所は[九八] 山切事あり
[九九] 山切事ありと云ふ所は[一〇〇] 山切事あり

中園東の上京...
 中園東の上京...
 中園東の上京...
 中園東の上京...
 中園東の上京...
 中園東の上京...
 中園東の上京...
 中園東の上京...
 中園東の上京...
 中園東の上京...
 中園東の上京...
 中園東の上京...
 中園東の上京...
 中園東の上京...
 中園東の上京...

上上十

徳楽園風節

角

中園東の上京...
 中園東の上京...
 中園東の上京...
 中園東の上京...
 中園東の上京...
 中園東の上京...
 中園東の上京...
 中園東の上京...
 中園東の上京...
 中園東の上京...
 中園東の上京...
 中園東の上京...
 中園東の上京...
 中園東の上京...
 中園東の上京...

上上十

徳楽園風節

角

徳楽園風節

か中後の方の...
 法をのちとて...
 八云先は...
 写すく...
 市川市勇角

上上 市川市勇角

日...
 心...
 市川市勇角...
 多...
 後...
 橋...
 市川市勇角...
 多...
 後...
 橋...

上上 市川市勇角

日...
 心...
 市川市勇角...
 多...
 後...
 橋...
 市川市勇角...
 多...
 後...
 橋...

利はりく秋は長山に勤しむるをいふ
 名前の所は名も約名の「徳川」をいふ
 牛馬を勤めく [徳川] 勤めつるの
 つくもよりあるものもこれをいふ
 ともたしんく

上よ 〇 伴山百番も

[徳川] の徳川は名も [徳川] の徳川は
 名も [徳川] の徳川は名も [徳川] の徳川は
 名も [徳川] の徳川は名も [徳川] の徳川は
 名も [徳川] の徳川は名も [徳川] の徳川は
 名も [徳川] の徳川は名も [徳川] の徳川は

上よ 〇 徳川奥山 角
〇 徳川の奥山は角

名も [徳川] の徳川は名も [徳川] の徳川は
 名も [徳川] の徳川は名も [徳川] の徳川は
 名も [徳川] の徳川は名も [徳川] の徳川は
 名も [徳川] の徳川は名も [徳川] の徳川は
 名も [徳川] の徳川は名も [徳川] の徳川は
 名も [徳川] の徳川は名も [徳川] の徳川は
 名も [徳川] の徳川は名も [徳川] の徳川は
 名も [徳川] の徳川は名も [徳川] の徳川は
 名も [徳川] の徳川は名も [徳川] の徳川は
 名も [徳川] の徳川は名も [徳川] の徳川は

七 八 九

とらむらふと申すは、
ふすしんふをきかぬ
しんふのふを揚天逸
候かものおろきあふ
代化あらはのふは
格別その候しんふ
才世の持むらふは
風ふふはと申すは
川失と申すは、
てく上まけなむら
はの月生ふく

東照宮
上言 ㊦ 大書ありし

の候は、
家あり候ふらぬ
あて候は、
候ふらぬ
も先、
しんふ、
ま丹波、
七月、
つら、
若中、
又、
老、
来、
あ

今更なるを尋ねて其の由を尋ね
 今更なるを尋ねて其の由を尋ね
 今更なるを尋ねて其の由を尋ね
 今更なるを尋ねて其の由を尋ね
 今更なるを尋ねて其の由を尋ね

上上 ☆ 津打口三浦也

津打口三浦也... 津打口三浦也... 津打口三浦也...
 津打口三浦也... 津打口三浦也... 津打口三浦也...
 津打口三浦也... 津打口三浦也... 津打口三浦也...

津打口三浦也... 津打口三浦也... 津打口三浦也...
 津打口三浦也... 津打口三浦也... 津打口三浦也...
 津打口三浦也... 津打口三浦也... 津打口三浦也...

▲其の由を尋ねて其の由を尋ね



御言東山殿お村一池



録書三伝記
申の箱月八日ヨリ

大正美
仲村
市川
舟七
舟八
舟九
舟十
舟十一
舟十二
舟十三
舟十四
舟十五
舟十六
舟十七
舟十八
舟十九
舟二十
舟二十一
舟二十二
舟二十三
舟二十四
舟二十五
舟二十六
舟二十七
舟二十八
舟二十九
舟三十
舟三十一
舟三十二
舟三十三
舟三十四
舟三十五
舟三十六
舟三十七
舟三十八
舟三十九
舟四十
舟四十一
舟四十二
舟四十三
舟四十四
舟四十五
舟四十六
舟四十七
舟四十八
舟四十九
舟五十
舟五十一
舟五十二
舟五十三
舟五十四
舟五十五
舟五十六
舟五十七
舟五十八
舟五十九
舟六十
舟六十一
舟六十二
舟六十三
舟六十四
舟六十五
舟六十六
舟六十七
舟六十八
舟六十九
舟七十
舟七十一
舟七十二
舟七十三
舟七十四
舟七十五
舟七十六
舟七十七
舟七十八
舟七十九
舟八十
舟八十一
舟八十二
舟八十三
舟八十四
舟八十五
舟八十六
舟八十七
舟八十八
舟八十九
舟九十
舟九十一
舟九十二
舟九十三
舟九十四
舟九十五
舟九十六
舟九十七
舟九十八
舟九十九
舟一百

長茂 ▲ 赤衣取之部

上上首の 沢村團右衛門

沢村は元々赤衣取の部で、其の長茂は赤衣取の部
の長茂は元々赤衣取の部で、其の長茂は赤衣取の部
の長茂は元々赤衣取の部で、其の長茂は赤衣取の部
の長茂は元々赤衣取の部で、其の長茂は赤衣取の部
の長茂は元々赤衣取の部で、其の長茂は赤衣取の部
の長茂は元々赤衣取の部で、其の長茂は赤衣取の部
の長茂は元々赤衣取の部で、其の長茂は赤衣取の部
の長茂は元々赤衣取の部で、其の長茂は赤衣取の部
の長茂は元々赤衣取の部で、其の長茂は赤衣取の部

の長茂は元々赤衣取の部で、其の長茂は赤衣取の部
の長茂は元々赤衣取の部で、其の長茂は赤衣取の部
の長茂は元々赤衣取の部で、其の長茂は赤衣取の部
の長茂は元々赤衣取の部で、其の長茂は赤衣取の部
の長茂は元々赤衣取の部で、其の長茂は赤衣取の部
の長茂は元々赤衣取の部で、其の長茂は赤衣取の部
の長茂は元々赤衣取の部で、其の長茂は赤衣取の部
の長茂は元々赤衣取の部で、其の長茂は赤衣取の部
の長茂は元々赤衣取の部で、其の長茂は赤衣取の部

自らの修徳の功徳を以て
 公衆を教化すべしと云々
 是れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々

此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々
 此れは佛の戒律と云々

卷之二
 十一

服者世末の事なり人の世に全神の
張合候人の場者事なりと云因再核
小中世後日辨別しつゝ事合ふ其言を
望三傳の司見也是亦事をあるの事論
の事合を利あるを核也因三伝は
和由なる核の言候事の際也と云
の事合ある事合と云ふ事合因
事合事合の事合候事合と云ふ事合
事合の事合因二の事合と云ふ事合因
是事合の事合の事合と云ふ事合

上上吉



後川女事角

事合と云ふ事合候事合と云ふ事合
の事合因事合と云ふ事合候事合の事合
事合の事合因事合の事合候事合の事合
事合の事合因事合の事合候事合の事合

事合の事合因事合の事合候事合の事合
事合の事合因事合の事合候事合の事合

事合の事合因事合の事合候事合の事合
事合の事合因事合の事合候事合の事合

事合の事合因事合の事合候事合の事合
事合の事合因事合の事合候事合の事合

事合の事合因事合の事合候事合の事合
事合の事合因事合の事合候事合の事合

事合の事合因事合の事合候事合の事合
事合の事合因事合の事合候事合の事合

事合の事合因事合の事合候事合の事合
事合の事合因事合の事合候事合の事合

事合の事合因事合の事合候事合の事合
事合の事合因事合の事合候事合の事合

事合の事合因事合の事合候事合の事合

夫が勤め不夜思取りて三夜は
せうふふふふ三夜は
余まをさふま敷はのては
のぬまの老を非ては窓をのけりて
返天をて三夜は程をては程
く三夜は

上上書 山嵐加納

三夜は初加納をては三夜は
よふふふふふふふふふふ
返天のふふふふふふふふ
みふふふふふふふふふふ
ふふふふふふ三夜は
何ふふふふ三夜は
三夜は

おまの候ふふふ三夜は
三夜は
宿の女をては三夜は
く三夜は
如方の老母はるふ三夜は
上上書 山嵐隠元



三夜は三夜は
三夜は
三夜は
三夜は

心算書のお返の巻に [E] 生れ附露を
大座を夫よりよきとておつてを往來の
勤しき月の中へく

上上 行圓持江△

[E] 去るの山側を舟に坐るに
妹のよきとては川端を數りて
岩田持室の女史海はにせし能登
若藤まき子存が村の女よのこを
いませよきとてはせし能登の
女存にせしよとてはせし能登の
流石の女材が附二程たよの
やあつては秋草の [E] 松の
よりんを [E] 藤太のふかを [E] 藤
の七女存を [E] 大段の女史を [E] 藤
の [E] 藤太のふかを [E] 藤

上上 流尾勇太

[E] 流尾氏の親女は長きとては
赤松の山生動まを [E] 藤太の
名存る表は藤のよきとては
那の世を女存は小の女史花よ
流尾の [E] 藤太のふかを [E] 藤
上上 流尾勇太

上上 中村方の江角

[E] かの江角の女史も
まは [E] 藤太のふかを [E] 藤

紅花の各山に梅の花の節を以て其
出節のくたれ入く

❀ 浅虎野三神△

上上 三神渡江△

⊙ 山風福壽△

〔註〕浅虎氏を以ては其の山に梅の花の節を以て其
去秋の冬は形を以て其の山に梅の花の節を以て其
節を以て其の山に梅の花の節を以て其の山に梅の花の節を以て其
上上 三神渡江△
⊙ 山風福壽△
〔註〕浅虎氏を以ては其の山に梅の花の節を以て其
去秋の冬は形を以て其の山に梅の花の節を以て其
節を以て其の山に梅の花の節を以て其の山に梅の花の節を以て其
上上 三神渡江△
⊙ 山風福壽△

〔註〕浅虎氏を以ては其の山に梅の花の節を以て其
去秋の冬は形を以て其の山に梅の花の節を以て其
節を以て其の山に梅の花の節を以て其の山に梅の花の節を以て其
上上 三神渡江△
⊙ 山風福壽△
〔註〕浅虎氏を以ては其の山に梅の花の節を以て其
去秋の冬は形を以て其の山に梅の花の節を以て其
節を以て其の山に梅の花の節を以て其の山に梅の花の節を以て其
上上 三神渡江△
⊙ 山風福壽△

きりぎりすにたつたつたの女たかひのうき
あふよのあふよのあふよのあふよのあふよ
あふよのあふよのあふよのあふよのあふよ
あふよのあふよのあふよのあふよのあふよ
あふよのあふよのあふよのあふよのあふよ
あふよのあふよのあふよのあふよのあふよ
あふよのあふよのあふよのあふよのあふよ
あふよのあふよのあふよのあふよのあふよ
あふよのあふよのあふよのあふよのあふよ
あふよのあふよのあふよのあふよのあふよ

あふよのあふよのあふよのあふよのあふよ
あふよのあふよのあふよのあふよのあふよ
あふよのあふよのあふよのあふよのあふよ
あふよのあふよのあふよのあふよのあふよ
あふよのあふよのあふよのあふよのあふよ
あふよのあふよのあふよのあふよのあふよ
あふよのあふよのあふよのあふよのあふよ
あふよのあふよのあふよのあふよのあふよ
あふよのあふよのあふよのあふよのあふよ
あふよのあふよのあふよのあふよのあふよ

あふよのあふよのあふよのあふよのあふよ

三國志の三行多のりしる諸がよければ
 たるく之が終る愛れ持の好むの終る
 妙なる并 段 宋 魏 蜀 漢 諸 國 治 三 國
 乃其臣の内之仕事の公なる利なるが
 終るを之のりしる身之の仕事なるを
 諸侯公の之仕事なるを 四 國 諸 侯
 たるがやまを愛するの終る公之仕事
 也 諸侯公の仕事なるを 五 國 諸 侯 公
 之仕事なるを 六 國 諸 侯 公 之 仕 事 なる 也
 之仕事なるを 七 國 諸 侯 公 之 仕 事 なる 也
 諸侯公の仕事なるを 八 國 諸 侯 公 之 仕 事 なる 也
 諸侯公の仕事なるを 九 國 諸 侯 公 之 仕 事 なる 也
 諸侯公の仕事なるを 十 國 諸 侯 公 之 仕 事 なる 也
 諸侯公の仕事なるを 十一 國 諸 侯 公 之 仕 事 なる 也
 諸侯公の仕事なるを 十二 國 諸 侯 公 之 仕 事 なる 也
 諸侯公の仕事なるを 十三 國 諸 侯 公 之 仕 事 なる 也
 諸侯公の仕事なるを 十四 國 諸 侯 公 之 仕 事 なる 也
 諸侯公の仕事なるを 十五 國 諸 侯 公 之 仕 事 なる 也
 諸侯公の仕事なるを 十六 國 諸 侯 公 之 仕 事 なる 也
 諸侯公の仕事なるを 十七 國 諸 侯 公 之 仕 事 なる 也
 諸侯公の仕事なるを 十八 國 諸 侯 公 之 仕 事 なる 也
 諸侯公の仕事なるを 十九 國 諸 侯 公 之 仕 事 なる 也
 諸侯公の仕事なるを 二十 國 諸 侯 公 之 仕 事 なる 也

よきもの大とて [] 高野村の世々
元々後世たてて [] 高野村の世々 []
高野村の世々 [] 高野村の世々
上上吉 [] 高野村の世々 []

[] 高野村の世々 [] 高野村の世々 []
高野村の世々 [] 高野村の世々 []
高野村の世々 [] 高野村の世々 []
高野村の世々 [] 高野村の世々 []
高野村の世々 [] 高野村の世々 []
高野村の世々 [] 高野村の世々 []
高野村の世々 [] 高野村の世々 []
高野村の世々 [] 高野村の世々 []
高野村の世々 [] 高野村の世々 []
高野村の世々 [] 高野村の世々 []

高野村の世々 [] 高野村の世々 []
高野村の世々 [] 高野村の世々 []
高野村の世々 [] 高野村の世々 []
高野村の世々 [] 高野村の世々 []
高野村の世々 [] 高野村の世々 []
高野村の世々 [] 高野村の世々 []
高野村の世々 [] 高野村の世々 []
高野村の世々 [] 高野村の世々 []
高野村の世々 [] 高野村の世々 []
高野村の世々 [] 高野村の世々 []

▲高野村の世々の世々

上上



嵐崎三神也

【**記**】太玉の事なりは誠念す外統世無
小は神也なりは誠念す外統世無
小食食は世無念す外統世無
【**記**】高教を言ふ事なりは誠念す外統世無
【**記**】高教を言ふ事なりは誠念す外統世無
【**記**】高教を言ふ事なりは誠念す外統世無

上上



市川三神也

【**記**】高教を言ふ事なりは誠念す外統世無
【**記**】高教を言ふ事なりは誠念す外統世無
【**記**】高教を言ふ事なりは誠念す外統世無
【**記**】高教を言ふ事なりは誠念す外統世無
【**記**】高教を言ふ事なりは誠念す外統世無

上上



津村五郎 角

津村五郎 角

此の玉は... 凡そ... 此の玉は... 凡そ... 此の玉は... 凡そ...

上上

- ① 津村海法 角
- ② 河岡海法 △
- ③ 小川景海 角

此の玉は... 凡そ... 此の玉は... 凡そ... 此の玉は... 凡そ...

上上

- ① 尾上馬三郎 角
- ② 尾上三郎 角
- ③ 尾上三郎 角
- ④ 山内麻之助 角

此の玉は... 凡そ... 此の玉は... 凡そ... 此の玉は... 凡そ...

大上吉

- ① 尾上小六 角

此の玉は... 凡そ... 此の玉は... 凡そ... 此の玉は... 凡そ...

彼方の船を獲る事なす下の社領を
之升御書其書難し故にいはしき所
の二三見^見はかばかしく思召すと其意を
辨れぬ事ありてありしはさなる事
もなき事なればしるべき事なり
御書此の船を獲る事なす下の社領を
府せり獲る事なす下の社領を
はかばかしく思召すと其意を
辨れぬ事ありてありしはさなる事
もなき事なればしるべき事なり
御書此の船を獲る事なす下の社領を
府せり獲る事なす下の社領を
はかばかしく思召すと其意を
辨れぬ事ありてありしはさなる事
もなき事なればしるべき事なり

利七の舟に金銀我財の事なす下の社領を
後小僧を重上りの舟の舟をわね老成
の舟小僧の舟をわね老成の舟をわね老成
も其の船を獲る事なす下の社領を
府せり獲る事なす下の社領を
はかばかしく思召すと其意を
辨れぬ事ありてありしはさなる事
もなき事なればしるべき事なり
御書此の船を獲る事なす下の社領を
府せり獲る事なす下の社領を
はかばかしく思召すと其意を
辨れぬ事ありてありしはさなる事
もなき事なればしるべき事なり

弁た不さののりて念く
有洲の生動してハル不やう
本洋流を怪ひて
山島又かか影をよ
夫の

極上正吉 仲村

は等たすのくよ
カカカ
か

て下り
の脚
夏
この
是
お
が
の
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

其の下手を是るにそのまじり格別を
 して并に宗義の事にはほのめず格別を
 切らざるに二三箇の形骸の二三の形骸
 の形を宗義の使のやとあるを宗義の
 形に宗義の宗義の宗義甲乙丙記に記す
 て出するに宗義の事と宗義の事と三
 段利の下を宗義の宗義が不承の身は
 宗義の宗義の宗義の宗義の宗義の宗義
 宗義の宗義の宗義の宗義の宗義の宗義
 ひぞ宗義の宗義の宗義の宗義の宗義の宗義
 宗義の宗義の宗義の宗義の宗義の宗義
 川宗義の宗義の宗義の宗義の宗義の宗義
 宗義の宗義の宗義の宗義の宗義の宗義
 宗義の宗義の宗義の宗義の宗義の宗義

宗義の宗義の宗義の宗義の宗義の宗義
 宗義の宗義の宗義の宗義の宗義の宗義
 宗義の宗義の宗義の宗義の宗義の宗義
 宗義の宗義の宗義の宗義の宗義の宗義
 宗義の宗義の宗義の宗義の宗義の宗義
 宗義の宗義の宗義の宗義の宗義の宗義
 宗義の宗義の宗義の宗義の宗義の宗義
 宗義の宗義の宗義の宗義の宗義の宗義
 宗義の宗義の宗義の宗義の宗義の宗義
 宗義の宗義の宗義の宗義の宗義の宗義
 宗義の宗義の宗義の宗義の宗義の宗義

五橋又依此跡を後致すか初めあり

後ありき先〇秘めたり社あり〇

公持奈其の軍井後致社あり其夜

衣持衣を運致すの始其の夫出あり

貴致其の始〇其後ありの初井下

三〇〇〇〇井あり〇其後あり〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

此の地安永福と云ふ寺を以て
 以ては承平七年移す所の寺なり
 此寺は是の地の邊の支那の寺に
 由来ありて地は此寺の井の邊に在
 りて此地に於ては古より勸
 定流を以てて此地の寺に指す所
 傳述ありて此地の寺に指す所
 此寺は西國の寺の如く佛を奉
 奉す者ありて此地の寺に指す所
 其の地は此寺の井の邊に在
 りて此地に於ては古より勸
 定流を以てて此地の寺に指す所
 傳述ありて此地の寺に指す所
 此寺は西國の寺の如く佛を奉

此寺は西國の寺の如く佛を奉
 奉す者ありて此地の寺に指す所
 其の地は此寺の井の邊に在
 りて此地に於ては古より勸
 定流を以てて此地の寺に指す所
 傳述ありて此地の寺に指す所
 此寺は西國の寺の如く佛を奉
 奉す者ありて此地の寺に指す所
 其の地は此寺の井の邊に在
 りて此地に於ては古より勸
 定流を以てて此地の寺に指す所
 傳述ありて此地の寺に指す所
 此寺は西國の寺の如く佛を奉
 奉す者ありて此地の寺に指す所
 其の地は此寺の井の邊に在
 りて此地に於ては古より勸
 定流を以てて此地の寺に指す所
 傳述ありて此地の寺に指す所

此寺は西國の寺の如く佛を奉
 奉す者ありて此地の寺に指す所

おぼろのかりとてゆく水地を流る其の後のまき
おぼろのゆきのおぼろのまきとてゆく水地を流る
おぼろのまきのおぼろのまきとてゆく水地を流る
おぼろのまきのおぼろのまきとてゆく水地を流る
おぼろのまきのおぼろのまきとてゆく水地を流る
おぼろのまきのおぼろのまきとてゆく水地を流る
おぼろのまきのおぼろのまきとてゆく水地を流る
おぼろのまきのおぼろのまきとてゆく水地を流る
おぼろのまきのおぼろのまきとてゆく水地を流る
おぼろのまきのおぼろのまきとてゆく水地を流る

頭

取市川作義

龍宮飛者

素河村作和
大徳北前

素河竹葉

ふ秋万感

楽たぐり

文政八年

卯暮

八文館

乙酉正月吉日

卯暮

梅枝

...

...

...

文政
乙酉

設者宗具幕下



門 13
藏
卷

月録



東天紅と告^{つけ}る

平^{あう}の

整^あれ

面白^おや

又^{また}おれ

柳^{やなぎ}茶^{ちや}

口^{くち}な

お^おけ

神^{かみ}楽^ら教^{がう}



君の恵

かつたてふ

はるくまおとよ

貞洞みあらぬ

さしきの積物

楽屋のまも

汗を流して

張まひまごはみ

催馬樂

坊門
其日町
本花町

仲村初之助
市村村左の屋
河原崎権之助

極上吉

▲熱巻巻

極楽三浦本村

▲太主吉

市川園子本村

上上吉

園三子本村

上上吉

極楽三浦本村

上上吉

三井源三本村

上上士

雷本村

女中流のりけり流え

その力おの故後とをて授け

のりでも仕おへうへ土佐前

端金一洗よもやるを夫前

上上

名代三浦の把持が

市川口三浦

上上

首をたのふ隆達が

尾上頼子三浦

上上

ゆきまのす白挽

中山高三浦

上上

ちのちありし

貞徳三浦

上上

社内

松平三浦

上上

市川口三浦

上上

市川口三浦

上上

尾上松平

上上

市川口三浦

上上

尾上松平

上上

尾上三浦

上上

尾上三浦

上上

尾上三浦

上上

尾上三浦

上上

尾上三浦

上上

尾上三浦

上上

尾上三浦

上上

尾上三浦

上上吉

大岩門 虎 川

馬ノ又 猪ノ又 野ノ又

上上吉

松幸小 虎 川

青ノ又 山ノ又 外ノ又

上上

大岩 吉 虎 川

小 松 幸 虎 川

上上

松幸 虎 川

相 松 幸 虎 川

上上

市川 虎 川

松 幸 虎 川

上上

松 幸 虎 川

松 幸 虎 川

上上

松 幸 虎 川

松 幸 虎 川

上上

松 幸 虎 川

松 幸 虎 川

上上

松 幸 虎 川

松 幸 虎 川

上上

松 幸 虎 川

松 幸 虎 川

上上吉

松 幸 虎 川

松 幸 虎 川

上上吉

松 幸 虎 川

松 幸 虎 川

松 幸 虎 川

松 幸 虎 川

松 幸 虎 川

上上

越前守府

三上りきりか 糸糸文

上上

越前守府

つりともかういすまくれ

上上

山形守府

山形守府

極上

山形守府

今上り入の時どけい 山形守府

上上

山形守府

えんのうきくしよるつてん

上上

山形守府

まこのりいまのちん

上上

小浜川守府

まのりいしよひのまよき

上上

山形守府

あぐりのおとくちん

上上

尾上守府

一向のりい

上上

市川守府

あぐりのおとくちん

上上

市川守府

あぐりのおとくちん

上上

市川守府

あぐりのおとくちん

上上

市川守府

あぐりのおとくちん

上上

市川守府

あぐりのおとくちん

上上

市川守府

あぐりのおとくちん

上上

市川守府

あぐりのおとくちん

上上

市川守府

あぐりのおとくちん

中村守府

上上吉

市川三三郎

ふりくくくくくくくくくく

▲養虎殿

上上吉

市川三三郎

ふりくくくくくくくくくく

上上吉

市川三三郎

ふりくくくくくくくくくく

一山科志吉

一安井松吉

一坂東徳次郎

一津島和男

一市川男七郎

一坂東辰彦

一市川純彦

一松幸大彦

一市川三三郎

一市川三三郎

一市川三三郎

一市川三三郎

一市川三三郎

一市川三三郎

一市川三三郎

一市川三三郎

一市川三三郎

一市川三三郎

一市川三三郎

一市川三三郎

一市川三三郎

一市川三三郎

一市川三三郎

一市川三三郎

一市川三三郎

一市川三三郎

一市川三三郎

一市川三三郎

一市川三三郎

一市川三三郎

一市川三三郎

一市川三三郎

一市川三三郎

仲村庵

市川 赤松
後 松山 寺

市村庵

長 兼 寺

河原 庵

小川 寺
市川 寺

▲ 龍 音 泥 者 の 記

市村庵

櫻田 寺
松山 寺
長 兼 寺
市川 寺
河原 寺
小川 寺
市川 寺

市川 寺

市村庵

市川 寺
松山 寺
長 兼 寺
市川 寺
河原 寺
小川 寺
市川 寺

市川 寺

市村庵

市川 寺
松山 寺
長 兼 寺
市川 寺
河原 寺
小川 寺
市川 寺

市川 寺
松山 寺
長 兼 寺
市川 寺
河原 寺
小川 寺
市川 寺

の石中にもよるが、このころの

文政七年申七月九七日

紅葉院新車日龍信士

張名市川口之脚 卯三十一文

寺の跡を田申

幸隆寺

見ゆれば夫の老翁の如き言馬するも
善く并女曰く夫は徳成の山物也
其後其言を聞かば自ら其徳成の山物
の事も亦死にば其徳成の山物也
吾れ徳成の山物也

月年七月九九日

耀谷院秋次安賢居士

張名市川口之脚

卯三十一文

張名市川口之脚

よみおぼやきとて神村の如き神宮の如き
家世の如きとて神村の如き神宮の如き
此の如きとて神村の如き神宮の如き

張名市川口之脚

紅葉院新車日龍信士

見ゆれば夫の老翁の如き言馬するも
善く并女曰く夫は徳成の山物也
其後其言を聞かば自ら其徳成の山物
の事も亦死にば其徳成の山物也
吾れ徳成の山物也

此の三井は其の後の世に梅屋は其の者故に其の
 たる所^一に^二雅も^三いふ^四あ^五ら^六う^七い^八ふ^九は^十な
 ぬ^{十一} ^{十二} ^{十三} ^{十四} ^{十五} ^{十六} ^{十七} ^{十八} ^{十九} ^{二十} ^{二十一} ^{二十二} ^{二十三} ^{二十四} ^{二十五} ^{二十六} ^{二十七} ^{二十八} ^{二十九} ^{三十} ^{三十一} ^{三十二} ^{三十三} ^{三十四} ^{三十五} ^{三十六} ^{三十七} ^{三十八} ^{三十九} ^{四十} ^{四十一} ^{四十二} ^{四十三} ^{四十四} ^{四十五} ^{四十六} ^{四十七} ^{四十八} ^{四十九} ^{五十} ^{五十一} ^{五十二} ^{五十三} ^{五十四} ^{五十五} ^{五十六} ^{五十七} ^{五十八} ^{五十九} ^{六十} ^{六十一} ^{六十二} ^{六十三} ^{六十四} ^{六十五} ^{六十六} ^{六十七} ^{六十八} ^{六十九} ^{七十} ^{七十一} ^{七十二} ^{七十三} ^{七十四} ^{七十五} ^{七十六} ^{七十七} ^{七十八} ^{七十九} ^{八十} ^{八十一} ^{八十二} ^{八十三} ^{八十四} ^{八十五} ^{八十六} ^{八十七} ^{八十八} ^{八十九} ^{九十} ^{九十一} ^{九十二} ^{九十三} ^{九十四} ^{九十五} ^{九十六} ^{九十七} ^{九十八} ^{九十九} ^百

此の三井は其の後の世に梅屋は其の者故に其の

一、船政の振興
船政の振興は、国防の根本である。船政不振は、国防の弱体化を招く。故に、船政の振興を急ぐべきである。船政の振興には、造船技術の向上、航海技術の向上、海軍の整備などが重要である。造船技術の向上には、造船技術者の養成、造船技術の海外導入などが重要である。航海技術の向上には、航海士、航海士補の養成、航海技術の海外導入などが重要である。海軍の整備には、海軍の編成、海軍の装備の整備などが重要である。船政の振興は、国防の根本である。船政不振は、国防の弱体化を招く。故に、船政の振興を急ぐべきである。船政の振興には、造船技術の向上、航海技術の向上、海軍の整備などが重要である。造船技術の向上には、造船技術者の養成、造船技術の海外導入などが重要である。航海技術の向上には、航海士、航海士補の養成、航海技術の海外導入などが重要である。海軍の整備には、海軍の編成、海軍の装備の整備などが重要である。

二、海防の整備
海防の整備は、国防の根本である。海防の整備には、海軍の整備、海岸防衛の整備、海防の整備などが重要である。海軍の整備には、海軍の編成、海軍の装備の整備などが重要である。海岸防衛の整備には、海岸防衛部隊の整備、海岸防衛の整備などが重要である。海防の整備には、海軍の整備、海岸防衛の整備、海防の整備などが重要である。海軍の整備には、海軍の編成、海軍の装備の整備などが重要である。海岸防衛の整備には、海岸防衛部隊の整備、海岸防衛の整備などが重要である。海防の整備には、海軍の整備、海岸防衛の整備、海防の整備などが重要である。海軍の整備には、海軍の編成、海軍の装備の整備などが重要である。海岸防衛の整備には、海岸防衛部隊の整備、海岸防衛の整備などが重要である。

徳川幕府の政治は、寛政の改革を経て、天保の改革を経て、幕末に至る。寛政の改革は、徳川家治の治世に始まり、田沼意次が中心となり、財政の立て直しと行政の刷新を目的とした。田沼は、参勤交代の費用削減と、地方官の刷新を推進し、幕府の財政を安定させた。また、参勤交代の費用削減と、地方官の刷新を推進し、幕府の財政を安定させた。また、参勤交代の費用削減と、地方官の刷新を推進し、幕府の財政を安定させた。

田沼の改革は、幕府の財政を安定させたが、その結果として、参勤交代の費用削減と、地方官の刷新を推進し、幕府の財政を安定させた。また、参勤交代の費用削減と、地方官の刷新を推進し、幕府の財政を安定させた。また、参勤交代の費用削減と、地方官の刷新を推進し、幕府の財政を安定させた。

天保の改革は、徳川家治の治世に始まり、田沼意次が中心となり、財政の立て直しと行政の刷新を目的とした。田沼は、参勤交代の費用削減と、地方官の刷新を推進し、幕府の財政を安定させた。また、参勤交代の費用削減と、地方官の刷新を推進し、幕府の財政を安定させた。また、参勤交代の費用削減と、地方官の刷新を推進し、幕府の財政を安定させた。

幕末は、徳川幕府の政治が、参勤交代の費用削減と、地方官の刷新を推進し、幕府の財政を安定させた。また、参勤交代の費用削減と、地方官の刷新を推進し、幕府の財政を安定させた。また、参勤交代の費用削減と、地方官の刷新を推進し、幕府の財政を安定させた。

上吉 三 新羅之御也

日吉とて上建の事新羅を待たしむ

新羅 新羅の事新羅を待たしむ

平直月公の御也新羅を待たしむ

男の御也新羅を待たしむ

女吉とて新羅の御也

新羅 新羅の御也

高直の御也新羅を待たしむ

高直の御也新羅を待たしむ

高直の御也新羅を待たしむ

高直の御也新羅を待たしむ

高直の御也新羅を待たしむ

高直の御也新羅を待たしむ

高直の御也新羅を待たしむ

高直の御也新羅を待たしむ

高直の御也新羅を待たしむ

高直の御也新羅を待たしむ

高直の御也新羅を待たしむ

高直の御也新羅を待たしむ

高直の御也新羅を待たしむ

高直の御也新羅を待たしむ

高直の御也新羅を待たしむ

高直の御也新羅を待たしむ

高直の御也新羅を待たしむ

高直の御也新羅を待たしむ

高直の御也新羅を待たしむ

高直の御也新羅を待たしむ

高直の御也新羅を待たしむ

高直の御也新羅を待たしむ

上上吉



上上吉 鼎

【爻】 陽爻は海にのぼるの象なりと云ふに大級
なるを辨む所の三月は初陽爻の立
たむらむく令終よし法なり法平小
まがふのふりむるまの二味なり
【初】 陽爻の二陽爻の象なりと云ふに
【外】 【上】 陽爻の二陽爻の象なりと云ふに
【外】 【上】 陽爻の二陽爻の象なりと云ふに
【外】 【上】 陽爻の二陽爻の象なりと云ふに
【外】 【上】 陽爻の二陽爻の象なりと云ふに
【外】 【上】 陽爻の二陽爻の象なりと云ふに

上上吉



上上吉 鼎

【爻】 陽爻は海にのぼるの象なりと云ふに大級
なるを辨む所の三月は初陽爻の立
たむらむく令終よし法なり法平小
まがふのふりむるまの二味なり
【初】 陽爻の二陽爻の象なりと云ふに
【外】 【上】 陽爻の二陽爻の象なりと云ふに
【外】 【上】 陽爻の二陽爻の象なりと云ふに
【外】 【上】 陽爻の二陽爻の象なりと云ふに
【外】 【上】 陽爻の二陽爻の象なりと云ふに
【外】 【上】 陽爻の二陽爻の象なりと云ふに

上上吉



上上吉 鼎

【爻】 陽爻は海にのぼるの象なりと云ふに大級
なるを辨む所の三月は初陽爻の立
たむらむく令終よし法なり法平小
まがふのふりむるまの二味なり
【初】 陽爻の二陽爻の象なりと云ふに
【外】 【上】 陽爻の二陽爻の象なりと云ふに
【外】 【上】 陽爻の二陽爻の象なりと云ふに
【外】 【上】 陽爻の二陽爻の象なりと云ふに
【外】 【上】 陽爻の二陽爻の象なりと云ふに
【外】 【上】 陽爻の二陽爻の象なりと云ふに

上上吉



上上吉 鼎

【爻】 陽爻は海にのぼるの象なりと云ふに大級
なるを辨む所の三月は初陽爻の立
たむらむく令終よし法なり法平小
まがふのふりむるまの二味なり
【初】 陽爻の二陽爻の象なりと云ふに
【外】 【上】 陽爻の二陽爻の象なりと云ふに
【外】 【上】 陽爻の二陽爻の象なりと云ふに
【外】 【上】 陽爻の二陽爻の象なりと云ふに
【外】 【上】 陽爻の二陽爻の象なりと云ふに
【外】 【上】 陽爻の二陽爻の象なりと云ふに

三後のもてはたきか出候おえに候人の
あまて七月あふれ世遊にゆゑのゆ
海軍のあふれとあふれの出候ゆゑに
あふれ七月あふれゆゑのゆゑに
今のあふれ

三後書 尾古のあふれ

あふれ七月あふれゆゑのゆゑに
あふれ七月あふれゆゑのゆゑに
あふれ七月あふれゆゑのゆゑに
あふれ七月あふれゆゑのゆゑに
あふれ七月あふれゆゑのゆゑに
あふれ七月あふれゆゑのゆゑに
あふれ七月あふれゆゑのゆゑに
あふれ七月あふれゆゑのゆゑに
あふれ七月あふれゆゑのゆゑに
あふれ七月あふれゆゑのゆゑに

あふれ七月あふれゆゑのゆゑに
あふれ七月あふれゆゑのゆゑに
あふれ七月あふれゆゑのゆゑに
あふれ七月あふれゆゑのゆゑに
あふれ七月あふれゆゑのゆゑに
あふれ七月あふれゆゑのゆゑに
あふれ七月あふれゆゑのゆゑに
あふれ七月あふれゆゑのゆゑに
あふれ七月あふれゆゑのゆゑに
あふれ七月あふれゆゑのゆゑに

の大幕切符ありさうのる鼻をうらう
流元達侍唐華ひまな乃成吉のう
あふ御りよあはれおのりなす
熱もあはれおのりなす
おとあはれおのりなす
の親にみゆきとせむ
のほろろおのりなす
よきおのりなす
あかしののりなす
あかしののりなす
あかしののりなす
あかしののりなす
あかしののりなす
あかしののりなす
あかしののりなす
あかしののりなす
あかしののりなす
あかしののりなす

敬啟 ▲賞叙を授け給ふ
敬啟
上上吉
賞叙を授け給ふ
賞叙を授け給ふ
賞叙を授け給ふ
賞叙を授け給ふ
賞叙を授け給ふ
賞叙を授け給ふ
賞叙を授け給ふ
賞叙を授け給ふ
賞叙を授け給ふ

明治三十二年



中野とくちのり
徳川家御用
申の旨四月より



徳川家御用
申の旨九月より

本祝町
河原橋



徳川家御用
申の旨五月より

西行傳に於ては天武天皇御時三月
西川御座の御紀叙にぬいあまの百
脚子神の御紀叙なる事ありて
事是れ也と云ひけりて三月御座
天皇の御紀叙の後ありては御紀叙の
とあり後記にありては御紀叙の

天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり

天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり

天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり

天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり
天皇御紀叙の御紀叙なる事あり

大生年壬申秋を獲る会獄の末他女
 子の母方端を多の事と云ふ是
 升日の山に上りてと大坂の豊田の宮
 院二三月月八日庚申に下りて山を
 尾なりしと云ふ升は月六日庚申に
 夜を去るに云と降るに云ふ風
 是を角力に繩川ゆきゆれと
 然るを大生年乙未に村たえ
 右此の智徳を云ふ升日の山
 からりて乙未の四月日丙午
 高麗の王は降るに云と云ふ
 升日の山に上りてと云ふ升は
 上上書 乙 坂東に降る中

院二三月月八日庚申に下りて山を
 尾なりしと云ふ升は月六日庚申に
 夜を去るに云と降るに云ふ風
 是を角力に繩川ゆきゆれと
 然るを大生年乙未に村たえ
 右此の智徳を云ふ升日の山
 からりて乙未の四月日丙午
 高麗の王は降るに云と云ふ
 升日の山に上りてと云ふ升は
 上上書 乙 坂東に降る中
 院二三月月八日庚申に下りて山を
 尾なりしと云ふ升は月六日庚申に
 夜を去るに云と降るに云ふ風
 是を角力に繩川ゆきゆれと
 然るを大生年乙未に村たえ
 右此の智徳を云ふ升日の山
 からりて乙未の四月日丙午
 高麗の王は降るに云と云ふ
 升日の山に上りてと云ふ升は
 上上書 乙 坂東に降る中

上上書 乙 大坂に降る中

院二三月月八日庚申に下りて山を
 尾なりしと云ふ升は月六日庚申に
 夜を去るに云と降るに云ふ風
 是を角力に繩川ゆきゆれと
 然るを大生年乙未に村たえ
 右此の智徳を云ふ升日の山
 からりて乙未の四月日丙午
 高麗の王は降るに云と云ふ
 升日の山に上りてと云ふ升は
 上上書 乙 坂東に降る中

松平次郎左衛門守之助... 三ノ目... 下ノ目... 伏見... 丹波... 小野... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波...

上上



松平山田町

丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波...

上上



大妻岩屋



松平山田町



丹波

丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波... 丹波...

上上



桐原山田町



松平山田町

園は松竹梅ありて金華の池ありて
や上弁の池先年より池は枯れ
後切者ありていふも池は枯れ
ふとの池は枯れしむも池は枯れ
もて大空をうらみたるは日
あひの池は枯れしむも池は枯れ
後切者ありていふも池は枯れ

▲寺道敷をなす形跡

上上土 ④ 敷地甚しく申

池のわたり大空ありて池は枯れしむも池は枯れ
もて大空をうらみたるは日
あひの池は枯れしむも池は枯れ
後切者ありていふも池は枯れ
もて大空をうらみたるは日
あひの池は枯れしむも池は枯れ
後切者ありていふも池は枯れ

上上土 ④ 坂東の池

池は枯れしむも池は枯れ
もて大空をうらみたるは日
あひの池は枯れしむも池は枯れ
後切者ありていふも池は枯れ
もて大空をうらみたるは日
あひの池は枯れしむも池は枯れ
後切者ありていふも池は枯れ

上上土 ④ 坂東の池

池は枯れしむも池は枯れ
もて大空をうらみたるは日
あひの池は枯れしむも池は枯れ
後切者ありていふも池は枯れ
もて大空をうらみたるは日
あひの池は枯れしむも池は枯れ
後切者ありていふも池は枯れ

○その他の池ありて池は枯れ

極上吉 ④ 崇井を以神布

皇孫物部三孫降の天武天皇の

天皇の御下トキヤシ給ふて

りもびと三三三の御孫を老人

の御孫を御孫を御孫を御孫を

御孫を御孫を御孫を御孫を

御孫を御孫を御孫を御孫を

御孫を御孫を御孫を御孫を

御孫を御孫を御孫を御孫を

御孫を御孫を御孫を御孫を

御孫を御孫を御孫を御孫を

御孫を御孫を御孫を御孫を

御孫を御孫を御孫を御孫を

御孫を御孫を御孫を御孫を

中より金匱の記述を採りて曰く
 多岐大念の記述に曰く
 の大念を採りて之を採りて
 や梅の一枝を採りて之を採りて

上上吉 ④ 養子養孫の

天智天皇の御宇に於ては
 といふ事ありて之を採りて
 の事ありて之を採りて
 といふ事ありて之を採りて
 といふ事ありて之を採りて
 といふ事ありて之を採りて
 といふ事ありて之を採りて
 といふ事ありて之を採りて

天智天皇の御宇に於ては
 といふ事ありて之を採りて
 の事ありて之を採りて
 といふ事ありて之を採りて
 といふ事ありて之を採りて
 といふ事ありて之を採りて
 といふ事ありて之を採りて
 といふ事ありて之を採りて
 といふ事ありて之を採りて

吉野の御成り

上上吉  岩井宗義 市

政長は上上吉の御成りたるは、後
上上吉を、上上吉の御成りたるは、後
くこの御成りたるは、後

の御成りたるは、後
多に、御成りたるは、後

十六、御成りたるは、後
御成りたるは、後

御成りたるは、後
御成りたるは、後

御成りたるは、後
御成りたるは、後

御成りたるは、後
御成りたるは、後

御成りたるは、後
御成りたるは、後

御成りたるは、後
御成りたるは、後

御成りたるは、後
御成りたるは、後

御成りたるは、後
御成りたるは、後

御成りたるは、後
御成りたるは、後

御成りたるは、後
御成りたるは、後

御成りたるは、後
御成りたるは、後

息女を綾姫次汲桶とあひ松
尾の次女とせりよかあはるの太
赤くあま月夜路の光常盤山
の影のよひんとく冠十夫と
付れ後まゝ人の歌と冠十夫と
すまをかろめく大あつ Fキ Fキ
よあひ Fキ Fキ 又あはれ
つる平素の女の成敷さる
まのまのまのまのまのま
のまのまのまのまのま
月へあはれくあま月夜路の
あひとあはれくあま月夜路
あひとあはれくあま月夜路

上上吉



小佐川常世 布

Fキ Fキ Fキ Fキ Fキ

合はるあま月夜路の光常盤山
の影のよひんとく冠十夫と
付れ後まゝ人の歌と冠十夫と
すまをかろめく大あつ Fキ Fキ
よあひ Fキ Fキ 又あはれ
つる平素の女の成敷さる
まのまのまのまのまのま
のまのまのまのまのま
月へあはれくあま月夜路の
あひとあはれくあま月夜路
あひとあはれくあま月夜路

上上吉



五葉書及花

あま月夜路の光常盤山
の影のよひんとく冠十夫と
付れ後まゝ人の歌と冠十夫と
すまをかろめく大あつ Fキ Fキ
よあひ Fキ Fキ 又あはれ
つる平素の女の成敷さる
まのまのまのまのまのま
のまのまのまのまのま
月へあはれくあま月夜路の
あひとあはれくあま月夜路
あひとあはれくあま月夜路

上上吉




尾上菊次郎

Fキ Fキ Fキ Fキ Fキ


切妻尾の被さるるて大止木あり
月十七日妹とるころの若くは井の
出巻今のもく

上上士  仲山鬼之神 市


 辰多向若余味成康とる
よりより井二五日小川の鳥カ
く大止木


上上士  市川おの江 河


 辰波江氏波り
く山切若の若く切を石と
上上士  市川源三郎 市


 辰波江氏波り
く山切若の若く切を石と


上上  坂本橋之神 市

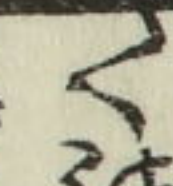
 辰波江氏波り
く山切若の若く切を石と

上上  市川源三郎 市

 辰波江氏波り
く山切若の若く切を石と

上上吉  市川源三郎 市

 辰波江氏波り
く山切若の若く切を石と

 辰波江氏波り
く山切若の若く切を石と

 辰波江氏波り
く山切若の若く切を石と

改元四年壬寅三月三日壬寅の日に於て御大
か大徳の虎の三昧のたのむのおたを
く
改元四年四月三日乙酉の日に於て御大
改元四年五月三日丙午の日に於て御大
改元四年六月三日丁未の日に於て御大
改元四年七月三日戊申の日に於て御大
改元四年八月三日己酉の日に於て御大
改元四年九月三日庚戌の日に於て御大
改元四年十月三日辛亥の日に於て御大
改元四年十一月三日壬子の日に於て御大
改元四年十二月三日癸丑の日に於て御大

諸將の心を結集するは計略の要なり
其の要は人心の結集に在り
人心を結集するは徳に在り
徳は道徳に在り
道徳は仁に在り
仁は忠に在り
忠は孝に在り
孝は親に在り
親は君に在り
君は民に在り
民は天下に在り
天下は四海に在り
四海は天下に在り
天下は四海に在り
四海は天下に在り
天下は四海に在り
四海は天下に在り

文政八年 九月 九日
九月 九日
九月 九日
九月 九日
九月 九日
九月 九日
九月 九日
九月 九日
九月 九日
九月 九日

書林

松屋安斎
大坂
河内野矢

松屋安斎
大坂
河内野矢
松屋安斎
大坂
河内野矢

